

# 公共交通の利用増ならびに混雑平準化に向けた「安心快適なおでかけサポート実証実験」の取組み

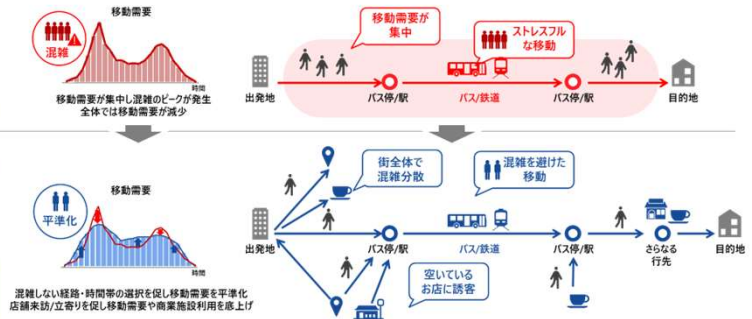
## 【背景と目的】

鉄道、バス等の公共交通は、在宅勤務等のライフスタイル多様化やコロナ禍による移動控えの影響による利用減少が進み、経営に大きな打撃を受けている。一方、都市部の公共交通は依然として朝夕に利用が集中しており、混雑緩和による安心・快適な移動の実現が求められている。本実証ではナッジを応用した技術により人々の行動変容を促すことで、公共交通の利用増や混雑平準化を図れるか、可能性を定量的に検証することを目的とした。

公共交通の案内を通じて、利用者に合った目的地や立寄り先と混雑を避けた移動方法を提案することで公共交通の利用増加や混雑平準化に繋がる、安心・快適な交通サービスの実現を支援



移動需要の集中により引き起こされる混雑や車両運用の非効率化は事業者の努力だけで改善するには限界、利用者に行動変容を促して改善効果を高める



## 【プロジェクトの内容】

西日本鉄道のバスおよび鉄道路線(天神、博多、大橋、久留米エリア)を実証フィールドとして参加者を募集、2022年2月～3月に実証実験を実施した。

参加者へは実験用に提供したWebアプリを通じ、来訪おすすめ店舗の提案による公共交通利用の促進や、混雑回避提案(立寄り先店舗や経路/時刻変更の提案)による混雑平準化の促進を実施した。提案結果(提案の受入れ有無)はアプリのログとして記録し、効果検証に活用した。

### 目的地的レコメンド

アンケート結果に基づいて、行動特性に合った店舗を提案



### 混雑回避経路のレコメンド

バスや電車の区間ごとの混雑度を提示し、混雑度が一定以上の場合に回避を提案

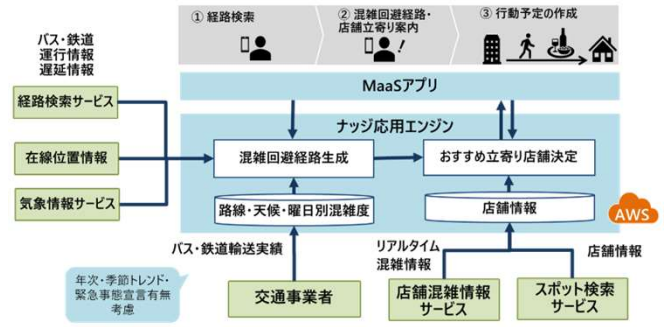


### 立ち寄り先のレコメンド

店舗立寄りを組み込んだ旅程を提案。店舗は混雑解消までの時間に応じて選択



経路検索サービス、スポット検索サービス、店舗混雑情報サービス、気象情報サービス、在線位置情報、輸送実績情報を活用



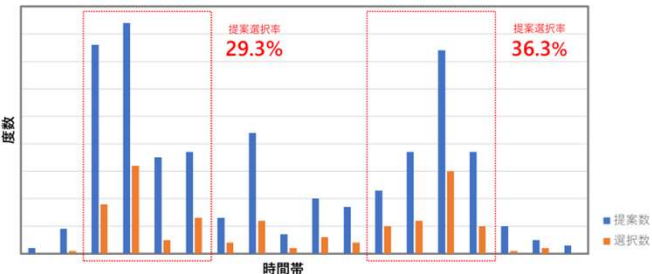
## 【効果】

Webアプリで検索した経路が混雑していた時、混雑回避提案の選択率は朝29.3%、夜36.3%であった。この結果を基に、輸送人数が最も多いバス区間で混雑平準化効果を推計したところ、ピーク時間帯の輸送人数を20.8%削減できる可能性があることを確認した。

また、来訪おすすめ店舗の提案選択率は10.6%であり、Web広告のCTR (旅行: 9.19%、wordstream社調査) と同等の選択率が得られた。

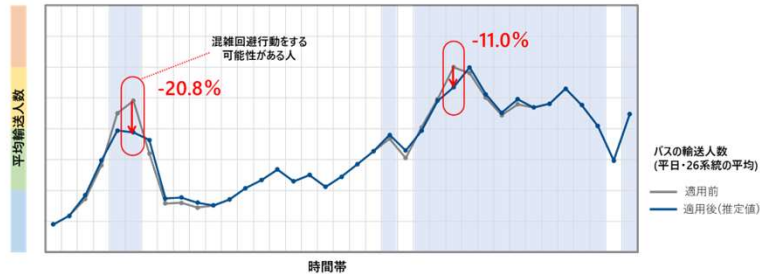
### 検証項目 混雑平準化

MaaSアプリで記録したログをもとに混雑回避の傾向を分析  
混雑回避提案は、朝時間帯で29.3%、夜時間帯で36.3%選択された



### 検証項目 混雑平準化

混雑率のピークを最大20%削減できる可能性あり  
MaaSアプリで記録した混雑回避提案の受け入れ率をもとに推算



### 検証項目 移動需要増

アプリ利用者の10.6%に対して外出喚起効果あり



MaaSアプリでおすすめされた店舗を先行(目的地)として選択した人数の割合

【参考】Web広告のCTR®  
(CTR: Click Through Rate)  
G社リスティング広告の業種別CTR調査値  
旅行: 9.19%  
(2022年、wordstream社調べ)

補足: アンケート調査ではおすすめの店舗に6.0%が訪問、24.4%が行きたい店舗があったと回答

## 【結果】

ナッジを応用した技術を使い行動変容を促すことで、一定の割合で公共交通利用の誘発や混雑の平準化を促進できる可能性があることを検証できた。

但し、結果数値を見る上では、実証参加者が行動変容の提案を通常より前向きに受け入れた可能性があることを留意する必要がある。

今後に向けては、行動変容の提案を受け入れた参加者がその通りに行動したかどうか(例えば、立寄り店舗へ行ったかどうか)の検証が課題である。